

北海道鉄道本部が2024年春闘学習交流会 要求を練り上げて粘り強い交渉へ

北海道鉄道本部は1月27日に「2024年春闘勝利をめざす学習交流会」を開催し、16名の仲間たちが参加しました。講師に札幌地区労連の木村議長を招き、労働相談の内容から分析される札幌で働く労働者の職場環境の厳しさや「ローカルユニオン結」に加入して会社との団体交渉や労働委員会の活用によって問題が解決した事例が紹介され、春闘総一行動への参加要請がありました。

竹田委員長からは「ローカルビッグアクション」をはじめ各地域で取り組まれる統一行動に参加して、物価高騰分を超える賃金の引き上げをめざして地域の仲間たちと共に奮闘することや、3・14統一行動日への結集を呼びかけました。JR北海道への春闘要求は月額で30,400円、非正規社員については物価上昇率が全国平均より高いことを考慮して、建交労中央委員会で確認される要求額に上乘せする「日額1,900円」「時間額170円」を確認しました。職場問題では昨年の要求から前進したもの（次年度計画で予算化されるものを含む）を精査し、若年退職を防ぐことにつながる賃金をはじめとする処遇改善と福利厚生面での改善を早急に取り組むことを求めることを提起しました。そして、声を上げられない社員の思いを組み入れ、利用者をはじめ地域住民からの声も参考に広範な要求を練り上げ、粘り強い団体交渉で前進を勝ち取る決意を固めました。このあと会場を移して「旗開き」を兼ねた交流会では、お店のご協力でご飯が食べきれないほどのお料理が並び、今が旬の真鱈タチをボン酢で味あわせてもらい、おいしいお酒で楽しいひと時を過ごしました。

なおこの日、各支部から年初めに発生した能登半島地震で被災された皆さんへの支援カンパ（3万3千円）が持参され、北海道鉄道本部の機関カンパを加えた5万円を全労連震災対策本部に送金しました。

北海道トラック部会が総会

1月27日に北海道トラック部会総会が小樽市民センターでひらかれ、道央・道東・道南の3地協の支部・分会から総勢14人が参加しました。総会では「2024年問題」をテーマに学習会をおこなうとともに、職場における労働組合の存在意義をはじめ、組合員の生活実態や将来展望などについて参加者全員が思い思いの発言をして、自由闊達な討論をおこないました。また、組織拡大のとりくみとして札幌地域支部札幌定温分会から「試用期間が終わったら組合加入」するよう会社と交渉をすすめているという報告がありました。トラック労働者のあるべき年収や退職金など、トラック統一要求基準を掲げてたたかうことを意思統一し、諸課題に対して「失敗を恐れずに果敢に挑戦する2024春闘にしよう」という言葉で総会を締めくくりました。コロナ禍により5年ぶりの開催となったこともあり、夜は久しぶりに顔を合わせる仲間と楽しく交流しました。

JR北海道「安全に関する労使合同会議」

1月25日に41回目となる「安全に関する労使合同会議」が開催され、JR北海道の4組合から委員長・書記長が出席しました。今回の会議では「安全計画2026」(案)の作成にあたり安全推進部長から改善点などの報告を受けました。現在の「安全計画2023」をベースにバージョンアップされ、社風アンケートや膝詰め対話で出された現場の声を踏まえながら、お客様アンケートで寄せられた声を安全施策に反映していくなど、安全確立にむけた会社の姿勢が示されたものでした。今後、加筆・修正がおこなわれ、多くの声に耳を傾けて作成された揺るぎない安全を追求する「安全計画2026」の発表に期待するものです。